

エコニュース さって



第 7 4 号
平成 30 年 3 月 30 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

「第 12 回子育て応援まつり」に参加して

報告 小谷

幸手市子育て応援まつり実行委員会主催による子育て応援まつりが、平成 29 年 12 月 10 日（日）ウェルス幸手で行われました。参加団体は 29 グループで、我が「さって市民環境ネット」もそのなかの一つとして参加しました。我々のブースでは、エントランスにおいて「活動報告の



おおきな海でさかなつり つれたよ！

展示」と「親子で遊ぼう」をテーマにおき「アンパンマンとバイキンマンのパズル」、「トントン相撲」、「ふあふあ猫」、「魚を作って魚釣り」、「松ぼっくりとどんぐりで作るトトロ」そして 2 階会議室では、16 mm 映写機とフィルムによる上映会を行い「ハチ公物語」、「かさっこ地蔵」、「クリスマスキャロル」の 3 作品を上映しました。工作では大人 69 名、子供 111 名が遊んでくれ、上映会では 30 名弱の方が観に来てくれました。作っている顔や観ている顔、それぞれの子どもたちの顔や目を見ていると「可愛く、いじらしく」純真な子供たちばかりで、これからの日本を背負ってくれる大切な子達です。

フツと頭をよぎったのは、子供はお母さんの顔を見ている、またはお母さんの方を向いて話し掛けているのに、スマホに一生懸命な様子はよく見かける光景です。「三つ子の魂百まで」と言う諺にもあるように、幼い子に対する親の接し方は、とても大事な時間だと思います。また一方では老人や中高年の人達、そして若者達のスマホ等を見ながら自転車や自動車の運転によって子供達を死に追いやってしまう事件を聞いた



トントン相撲 たのしいな 勝負だ

り読んだりするたびに悲しくて心痛む思いです。この子には、色々ないい人に出会いがあったかもしれません。そして色々な楽しい事や嬉しい事があろうという想像も容易です。それを心無い行動で未来を奪ってしまう。これは、日本の大損失です。

今年は明治元年から 150 年になります。先の戦争後、大きく世の中が変化したといわれる昨今、反省も含め先人達の想いは、どうだったかを尋ねてみましょう。

— 子育て —

日本の陽明学の祖とも言われ近江聖人として親しまれ尊敬された中江藤樹先生の「翁問答」や「鑑草」（かがみぐさ）にも記され「胎内にある間も母徳の教化あり」とし「孝」についても「親孝行」のみならず「子孝行」についても説かれている。即ち子供に対する孝行であり「天の生むものを受けこれを育てる」、夫と妻の和のもと妻は懷妊の時より身を正し、子供のことを思い育て、現生に生み赤子を授かるのです。赤子は母の胎内の時より臍の緒を通して栄養を摂取すると同時に母親のその時々言葉使いや接し方そして感情をも摂取しているのです。先ず母親の影響を受け、父、祖父母等々より影響を受けながら白紙の画用紙に次々と描かれて行き人間形成が作られていくのです。従って、母親の生活態度が如何に重要かが説かれ子育ての基本です。

— 園、学校教育 —

園や学校生活は、子供にとって子育ての大切な時間です。内村鑑三著「代表的な日本人」にも記され「十戒のうち八戒は両親より学んでいる」さらに真の人間になるために学校に行き、学校教育は実践道徳に重きが置かれていた。また「人間は分類してまとめることは出来ないもの。一人ひとりつまり顔と顔、魂と魂とをあわせて扱わなければいけない。教師は各々の持つ肉体的、知的、霊的な特性に従って教え名を各々把握していたのである。教師と生徒の関係はもっと濃やかで、教師は先生と呼ばれ真理を先に了解した点で最高に尊敬がはらわれていた。さらに生徒はクラスに分けられ教えられることもなかった。」と記されている。

「子供は親を選べないのです。ですから親の生きざまを黙って観ているのです。」従って日々の生活において両親の生き様と態度を改め、親の背中を見せれば子供はそれを学んでいくのです。

歳のせいでしょうか？「我が幸手の町を子供を産みやすく、育てやすい、また若者が住みたいと思う。そして他の地域の人からも幸手に移住したいと思う町にしなければならない」これを夢物語にしていけないという思いが・・・！

第 3 回幸手市民環境講座 「野鳥観察会」報告

報告 宮田

平成29年度第3回市民環境講座野鳥観察会が平成30年2月3日（土）に行われました。埼玉県生態系保護協会の青柳進氏を講師に迎え北公民館から中川外野橋バルコニー、土手からの干潟、行幸湖、高須賀池の先まで足を延ばした2時間30分のコースです。1月27日の下見では週初めに降った雪の影響で見学予定のコースを確認するのが大変でした。



参加者の集合写真 高須賀池にて

お天気にも恵まれ絶好の野鳥観察会となった当日の参加者は市民13人、市民環境ネットのスタッフ6人と環境課の職員2人、合計21人です。今回は常連の参加者の方も多く、それぞれにお目当ての野鳥に会えるかと双眼鏡を手に観察していました。

講師は、肉眼で見つけた鳥を双眼鏡で確かめ、その鳥を望遠鏡で大きく見せてくれます。順

番に望遠鏡を覗き込んで「綺麗～」と声があがります。

鳥の名前を資料で確かめながらチェック。参加者の中には電子図鑑を用意してきた方もいて見つけた鳥の鳴き声をその場で聞く事が出来ました。便利な世の中になったものです。

中川にはダイサギがゆっくりと舞い降り、ワルツでも踊っているように進みます。雪が残る景色の中でも水面に映る真っ白な姿はとても美しかったです。



優雅なダイサギ 水面にも



オスのコガモ 本物はとても美しい

最後には「カワセミ」の登場です。一瞬通り過ぎた姿を確認出来た参加者はラッキーでした。参加者の殆どの方が「鳥の種類に驚き、何回参加しても楽しい」との声にスタッフも笑顔でした。しかし、土手に散乱していたごみには残念でなりません。

講師へ「鳥を見つけるコツは？」の質問には「名前を覚える事」そして「自分の好きな鳥を作る事」との事でした。

当日観察出来た野鳥は 33 種類

カワウ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ヒドリガモ、セグロカモメ、ダイサギ、アオサギ、オオバン、バン、イカルチドリ、イソシギ、タシギ、ノスリ、キジバト、カワラバト、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、シジュウカラ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス

下見の時には下記を含め 25 種類ほど観察出来ました。

マガモ、タヒバリ、オカヨシガモ、カイツブリ、マガモ、シロハラ、トビ、ツグミ、コゲラ、オオジュリン

浮きウキフェスタ」は台風で中止するも、皆の熱意で 4 基の「浮島」を作る！！

報告 久保田

昨年、10 月 29 日（日）に予定されていた「行幸湖浮きウキフェスタ 29」が、台風 22 号の来襲で中止となった。メインイベントの「浮島づくり」も中止せざるを得ず、参加応募者に中止の連絡をした。だが、「幸手中央ロータリークラブ」から、どうしても浮島を作りたいとの依頼が

あった。今回の浮島づくりは、幸手ロータリークラブの 20 周年記念事業と位置づけられていて、メンバーはこの日のためにスケジュールをやりくりし、気合いを入れて待っていた。延期して



写真 1 浮島 幸手ロータリークラブ号完成！

行うには、スケジュール合わせが大変難しいので、なんとかできないかとのこと。ならば、少々雨は覚悟の上でと、浮島づくりを行う。作り上げた浮島に乗って、撮った記念写真がこれ（写真 1）。カメラのレンズにも雨滴がかかっている。

浮島づくりは 4 基を予定していた。「台風で中止」の決定の前に、材料の手配は済んでいたもので、まだ、3 基分の材料が残っている。

フェスタ実行委員会の幹事会で検討した結果、11 月 14 日の「埼玉県民の日」に、残りの浮島づくりを行うことになり、実行委員を通じて、あらためて参加者の募集をかける。当日は曇り、ときどき小雨。急な呼びかけで大人数は参加できなかったが、集まった小学生、大学生、市民団体のメンバー 20 名ほどで 3 基の浮島を作り上げた。少ない人数で 3 基の浮島をつくるのは大変だったが、昼過ぎまでかけて



写真 2 県民の日の浮島づくり

何とか作り上げる。完成した浮島での記念写真（写真 2）、みな達成感にあふれた表情をしている。

写真 3 は、浮きウキフェスタの会場、権現堂 1 号公園の行幸湖を望むところに建てられた浮島の説明看板です。「浮島とは何か、どんな働きをするのか、どのように作っているのか」などを分かり易く解説しています。浮島づくりの意義を、多くの人に伝えたいという願いで今回立てられました。



写真 3 浮島の説明看板

【会員募集中！】 環境保全活動を一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕★問い合わせ先；久保田 修（代表）まで TEL 0480-42-1264

幸手の環境活動グループ： 幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会（いきがい大学伊奈学園 20 期）